

《履修上の留意事項》本講義のスライドは「北海道医療大学 e-ラーニング (Glexa)」にアップしてあるので、講義の前にあらかじめ印刷するか、ダウンロードして見られる状態にしておくこと。印刷した講義資料は配布しない。また、過去の試験問題もe-ラーニングにアップしてあるので、予習、復習、試験対策に活用すること。

《担当者名》教授 / 泉 剛

【概要】

薬物療法学 では、てんかん、統合失調症、うつ病、パーキンソン病や脳血管疾患などの様々な中枢神経系の疾患の病態生理、薬物治療、治療薬物の薬理作用について、機能形態学的、病態生理学的知識に基づいて体系的に学ぶ。また、代表的な中枢神経作用薬の化学構造も例示する。

【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な中枢神経系疾患・病態について列挙し、その病因・病態を理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	全身麻酔薬 教科書：p191～199	全身麻酔薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1 E2-(1)- -1	泉 剛
2	麻薬性鎮痛薬 がん終末期医療と緩和ケア 教科書：p224～236	麻薬性鎮痛薬の薬理および臨床適用を説明できる。 がん終末期医療と緩和ケアに関わる薬物とその使用方法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -2 E2-(7)- -1,2 E2-(1)- -1	泉 剛
3	パーキンソン病 教科書：p261～270	パーキンソン病について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -9 E2-(1)- -1	泉 剛
4	統合失調症 教科書：p243～250	統合失調症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -4 E2-(1)- -1	泉 剛
5	うつ病、躁うつ病（双極性障害） 教科書：p252～261	うつ病および躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -5 E2-(1)- -1	泉 剛
6	不安障害、睡眠障害 教科書：p199～215	不安障害および睡眠障害について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -6 E2-(1)- -1	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	てんかん 教科書：p216～224	てんかんについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -7 E2-(1)- -1	泉 剛
8	脳血管障害 教科書：p270～278	脳血管疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -8 E2-(1)- -1	泉 剛
9	認知症 片頭痛 その他の神経疾患 教科書：p236～243	認知症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 片頭痛について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症、末梢神経障害など代表的な神経疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -10,11,14 E2-(1)- -1	泉 剛
10	中枢興奮薬 薬物・アルコール依存 教科書：p278～286	中枢興奮薬の薬理および臨床適用を説明できる。 薬物・アルコール依存について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -3,14 E2-(1)- -1	泉 剛

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100%）で合否の判定を行う。

定期試験後は、試験問題の解答と解説を、「遠隔授業ポータルサイト（g-drive）」および「北海道医療大学 e-ラーニング（Glexa）」にアップするので、学修に活用すること。

【教科書】

「詳解 薬理学」廣川書店

【参考書】

病気が見える vol.7 脳・神経 MEDIC MEDIA

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の講義スライド並びに教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。

復習は、講義スライド並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬

【 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】1～11,14

【 化学構造と薬効】1

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

【 がん終末期医療と緩和ケア】1,2

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

泉 剛（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師としての実務経験をもとに、臨床に即した薬理学および薬物療法の知識を講義する。